

まんなかビジョン討論会（高山会場）開催結果の概要

1. 開催日時・会場

- ・ 日時 平成 14 年 10 月 26 日（土）13：30～15：30、小雨
- ・ 会場 飛騨・世界生活文化センター 食遊館地下 1 階大会議室

2. 出演者構成

- ・ コーディネーター
竹内 ゆみ子（NPO 法人ソムニード・サンガム理事）
- ・ 発言者
大塚 則幸（高山市在住）
大森 清孝（高山市在住）
河渡 正暁（高山市在住）
下梶 勝彦（神岡町在住）
田口 節子（白川村在住）
平澤 外司来（宮川村在住）
松本 恵美子（宮 村在住）
- ・ 行政側出演者
若林 陽介（中部運輸局企画振興部長）
水谷 明大（中部地方整備局建政部都市調整官）
藤原 勉（岐阜県地域県民部参事兼地域政策室長）
- ・ 聴講者数
92 名（男性 71 名、女性 21 名）
- ・ 会場風景



3. 主な発言要旨

[私の考える地域づくりに関して]

- ・ 近年、道路が整備されたことにより観光客も増え地域にも元気がでてきている。大事なのは、それら観光客を受け入れて地域を活性化させるためには、地域住民自身が地域づくりのために積極的に活動していくことだ。
- ・ 歴史と文化に共通性のある飛騨地域を一つの地域として捉え、地域一体の絆を深めていくような人材育成が必要だ。
- ・ 道路ができて観光客が増大し便利になる一方で、従来持っていた地域のセキュリティが失われてきている。また、従来は子ども達が社会の一員として自分たちの将来ビジョンをイメージできる環境を地域が有していたが、現在はそのような地域の力がない。小さな村では、そのような地域の力を再現していくことが大切な事ではないか。
- ・ 地域づくりには「知る」「歩く」「交流する」の3つの観点が重要だと考える。まず、「知る」といった観点では、「猫道マップ」のような地域の生活感を感じることができる仕掛けをつくる等の発想があってもいい。次に、「歩く」といった観点では、道路整備を物流重視の視点からではなく、生活者の視点として安心して歩くことのできる連続的な歩道の整備、「交流する」といった観点では、オフシーズンのスキー場を活用できるようにリフトを通年運行するといった地域内外の人と交流する場をつくるなどの取り組みも重要だ。
- ・ 宮峠のヘアピンカーブや急な勾配が地域住民を不安にさせている。安心して安全に通行できるような道路整備が、地域住民にとってもそこを通過する観光客にとっても必要なのではないか。
- ・ 空き家を活用した「コミュニティースペース」といった地域の人々が集まりまちづくりについて話し合える場をつくり、交流の場を提供し地域の活性化の一助になるような取り組みが大切だ。

[中部の目指すべき方向（7つの目標）のうち、飛騨地域や中部地域全体にとって特に重要な目標（意向アンケート結果*を受けて）] *意向アンケートの結果は末尾掲載

- ・ 飛騨地域の「自然、文化、観光振興」の回答が多いのは、資源豊富な飛騨に魅力がなければ都会の人たちに来てもらえないという認識があるからだと思う。私たちは資源を大事に守り育てながら、この資源を都会の人と共有していきたい。
- ・ 飛騨地域、中部地域のそれぞれに共通して言えることは、「生活環境」と「安全安心」というものに、ここに定住する人たちの思いがあることである。これを機会に飛騨地域が中部地域の中の一隅であるということ再認識し、大きな視野で見ていくべきである。（聴講者）
- ・ 交流が進むと地域らしさが失われる可能性がある。地域の特徴をなんとかして守り育てていかなければいけない。それが飛騨地域の「自然、文化、観光振興」の回答に反映されたと思う。
- ・ モノを創り出すことは「夢」を持つことにもつながる。産業の空洞化を防ぎ、モノづくりを活発にすることが中部にとって重要なことである。
- ・ 高齢化に伴い交流を担う道路を高齢者の視点で整備していく必要があるのではないか。

[その他、まんなかビジョンについて]

- ・ 片仮名を日本語にしていただけるとありがたい。わかりやすい言葉を使っていただきたい。
- ・ このようなビジョンが作られているのは知らなかった。中部地域の住民はこのビジョンを十分理解することが必要だ。行政の方で、今日のような機会を持たれたことは画期的だ。
- ・ 地域づくりをしていく上で市町村の間で差が出てきた場合は、国が地域全体を広く見て、地域づくりを進めていただきたい。

4. 意向アンケート結果

会場にお越しいただいた方に対し「意向アンケート」を実施し、その場で、「中部の目指すべき方向（7つの目標）」について、飛騨地域と中部地域全体のそれぞれの観点から最も重要と思われる項目について尋ね結果を発表した。結果は以下の通りである。

- ・ 飛騨地域では、「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などの保全・再生・創出活用」が60票と過半数を占めた。
- ・ 一方、中部地域全体では、「日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」が28票と最も多く、次いで「東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」が25票となっている。飛騨地域と異なり、7つの項目全てに回答が得られた。

[意向アンケート得票数]

